

★ 水稻 トビイロウンカ情報 ★

8月第6半旬にトビイロウンカの緊急調査を行った結果、山城地域の6地点でトビイロウンカの生息を確認しました。他のほ場に飛来している可能性もありますので、今後の発生状況に注意してください。

● トビイロウンカの発生状況等

8月中旬の巡回調査で山城地域の1ほ場でトビイロウンカの長翅型成虫を2頭確認し、予察灯調査でも8月20、21日に京田辺市で計2頭、8月21日に亀岡市で1頭確認しました。

そこで、8月中旬の巡回調査を補完するため、8月27日に山城・南丹地域のほ場の緊急調査を行いました。調査は「トビイロウンカの多飛来時の調査地区」及び「平成22～24年にトビイロウンカによる坪枯れの発生した地点」から抽出した8地点16ほ場で行いました。

その結果、山城地域の八幡市、井手町、精華町B、木津川市A、木津川市Bでトビイロウンカの長翅型または短翅型成虫及び幼虫を、精華町Aで幼虫を確認しました。南丹地域では成虫及び幼虫は見られませんでした（表1）。

● トビイロウンカの生態・注意点

成虫には羽の長い型（長翅型、図1）と短い型（短翅型、図2）があり、ほ場に飛来してくる成虫はすべて長翅型で、その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出現します。

トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります（図3）。中晩生品種は今後収穫までの期間が長いので、発生状況に注意してください。

トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元に多いので、株元を注意して観察してください。低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので注意が必要です。

表1 トビイロウンカ調査結果

調査日：8月27日

地域	調査地点	25株見取り・払い落とし調査					20回振りすくい取り調査			
		成虫		幼虫	計	程度**	成虫		幼虫	計
		長翅	短翅				長翅	短翅		
山城	京都市 1*	0	0	0	0	無	0	0	0	0
	同 2	0	0	0	0	無	0	0	0	0
	八幡市 1*	0	1	2	3	少	0	0	0	0
	同 2	0	0	0	0	無	0	0	0	0
	井手町 1	0	0	0	0	無	1	0	1	2
	同 2	0	0	0	0	無	1	0	1	2
	精華町A 1	0	0	0	0	無	0	0	3	3
	同 2	0	0	3	3	少	0	0	0	0
	精華町B 1	0	1	0	1	少	0	0	0	0
	同 2	0	1	2	3	少	0	0	2	2
木津川市A	1	0	0	15	15	少	0	0	1	1
	同 2	2	0	1	3	少	0	0	2	2
木津川市B	1*	0	2	0	2	少	0	0	0	0
	同 2	0	0	3	3	少	0	0	1	1
南丹	亀岡市 1	0	0	0	0	無	0	0	0	0
	同 2	0	0	0	0	無	0	0	0	0

* 調査定点

** 発生程度別基準

程度	無	少	中	多	甚
25株当たり虫数	0	1-125	126-500	501-1250	1251以上

●防除上の注意事項

- ・防除の目安は**株当たり成幼虫が5頭以上**です。
- ・**農薬の使用にあたっては使用基準を遵守**してください。収穫期に近いので、**収穫前使用日数や使用回数に注意**してください。
- ・粒剤では種類により施用時期が決まっているので、**適期に施用**してください。また、粉剤や液剤で防除する場合は、**薬剤が株元に十分届く**ように散布してください。なお、防除の際には、**周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意**してください。
- ・収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、**収穫適期の範囲内で早めに収穫**してください。
- ・必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、**適期落水に努めて**ください。
- ・なお、出穂前後の害虫防除を実施したほ場では被害（坪枯れ）が生じる可能性は低いと考えられますが、ほ場によっては密度が高くなることもあるので**十分注意**してください。



図1 トビイロウンカ長翅型成虫



図2 トビイロウンカ短翅型成虫



図3 坪枯れが発生したほ場